



## 新聞を読むことのススメ」

子どもたちには、「なぜだろう?」「どういうことだろう?」と疑問をもったり、「そうだったのか!」と物事を理解したりする「学び」の経験を多く積み上げていってほしいと願っています。「学ぶ」ということは「知る」「考える」「分かる」の繰り返しです。「学ぶ」というと学力テストの点数を考えてしまいます。しかし、「学ぶ力」の基礎は、身の回りの出来事に疑問をもち、それを解決していこうとする意欲や感性が大切です。その意欲に支えられて、考え、分かる喜びの経験を増やしていくことが学ぶ力を伸ばしていきます。学ぶ経験は、学校の授業だけではなく、日常生活の中でも積み上げていくことができます。その一つの方法が「新聞を読む」ことです。

「新聞を読む子は学力が高い」とよく言われます。このことは、全国学力状況調査でも明らかにな



っています。学習状況のアンケート調査の中で「新聞やテレビのニュースなどに興味がありますか」という調査項目があります。

「当てはまる」と回答した児童と「当てはまらない」と回答した児童ではテスト結果に大きな差が見られたのです。残念ながら、本校では、「全く読まない」と答えた割合が60パーセント以上で、全国や県平均と比べるとかなり残念な状況でした。

新聞を読むことで、多くの情報に触れることができます。難しい言葉があっても回りの情報から書かれている内容を推理することもできます。また、読み進めていくと「なぜだろう」と疑問に思う記事もたくさん見つけることができます。このように子どもたちの世界を広げるとともに、学力の基盤となる大切な力を育てていきます。学校でも新聞を取り入れた授業に取り組んでいきます。小説や物語などは、感性を育て、情緒を豊かにしていくためには大切です。説明文や論説文などは、理性に訴え、論理性を育てることに結びつきます。学力問題に関わらず、新聞を読むことは、社会に広く目を向けたり、自らの興味から幅広い知識を得たりする力を蓄えるために役立ちます。僅かな時間でも新聞に目を向けることは、将来に向けて大きな力となる習慣だと思えます。

本校の5年生A子さんは、毎日の自主勉強で小学生新聞を読み、その中から興味をもった記事を切り抜き、感想を書いています。また、B子さんは、毎日、朝日新聞の社説を全文ノートに写し、そのキーワードをメモしています。C君は夏休みの課題で『新聞感想コンクール』に応募し、入選となりました。毎日ではなくとも、新聞記事の内容を題材にしながら「新聞に～ことが書いてあったよ」と食卓の話題にするだけでも子どもの社会の出来事に対する興味関心を高めます。新聞を読むことに取り組んでみてください。お勧めします。

